

科目名	社会保障制度(関係法規含む)						
科目名(英)	Social security system						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美・大熊 一博 仲野 悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の全体の仕組みを理解し、個別の保険制度を学ぶ ・言語聴覚士に関わる法律や規定を理解する ・関連職種に関する理解を深める ・実際に働くにあたって必要な法律や規定を知る 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障制度の仕組み、各種制度について概説することができる。	
	○	○				医療関係法規について概説することができる。	
	○	○				言語聴覚士法について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書・倉内紀子 言語聴覚療法シリーズ 改訂 言語聴覚障害総論 I 建帛社 2012 中島泉 医学概論 南江堂 2015						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障制度	社会保障の機能、仕組み			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	2		社会福祉主要法則			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	3		公的扶助、障害者手帳			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	4		介護保険制度、医療保険制度			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	5		年金制度			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	6		社会福祉援助			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	7	関係法規	法の概念 医事法規とは			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	8		医事法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	9		医事法～衛生法の分類、厚生行政			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	10		医事法～医師法などの関連職種の法規			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	11		医事法～保健・環境衛生など			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	12		労働関係法規			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。	
	13		言語聴覚士法	言語聴覚士法			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。
	14	言語聴覚士法施行規則、言語聴覚士法施行令			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	失語症Ⅳ						
科目名(英)	AphasiaⅣ						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	森 淳一・高橋 雅子 若山 恵・神代病院リハ科		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院・施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	1. 現場の言語聴覚士から、症例を通して、失語症臨床の実際について学ぶ 2. ICFと目標指向的アプローチの実際について学ぶ 3. 高次脳機能障害を含めた「教材」の例について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○	○	リハビリテーションとは何かを説明できる。	
	○					失語症の訓練、教材を作成することができる。	
	○	○				高次脳機能障害の社会的背景、モデル事業を概説できる。	
	○	○				失語症・高次脳機能障害に対する他職種の見点・観点を概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚士のための臨床実習テキスト—成人編— 建帛社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	①ICFの概略、②リハの見点、③リハマインド、④医学モデルと生活モデル				レポート作成準備 30分	
	2	ICF:①目標志向的アプローチ、②できる活動、している活動、する活動(森淳一)				レポート作成準備 30分	
	3	ICF:①ニーズとデマンド、②自立と自立支援について(森淳一)				レポート作成準備 30分	
	4	①ICFの臨床応用、②目標について(森淳一)				レポート課題 60分	
	5	失語症訓練教材(教材の考え方)(高橋雅子)				レポート作成準備 30分	
	6	失語症訓練教材(教材の考え方)(高橋雅子)				レポート作成準備 30分	
	7	高次脳機能障害(モデル事業の流れ)(高橋雅子)				レポート作成準備 30分	
	8	高次脳機能障害(訓練プログラムとは)(高橋雅子)				レポート課題 60分	
	9	高次脳機能障害(観察の見点)(若山恵)				レポート課題 60分	
	10	高次脳機能障害(観察の見点)(若山恵)				レポート課題 60分	
	11	失語症(症例検討)(神代病院リハ)				レポート作成準備 30分	
	12	失語症(症例検討)(神代病院リハ)				レポート作成準備 30分	
	13	失語症(症例検討)(神代病院リハ)				レポート作成準備 30分	
	14	失語症(症例検討)(神代病院リハ)				レポート作成準備 30分	
15	失語症(症例検討)(神代病院リハ)				レポート課題 60分		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 以上を下記の見点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○		○	○	100%
履修上の注意							

科目名	拡大・代替コミュニケーション学						
科目名(英)	Augmentative and Alternative Communication						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	久保 健彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	言語聴覚士として教育機 関に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	①コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。 ②コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他		
	○	○			コミュニケーション障害者児者にとってのAACの必要性について本質を説明できる		
	○	○			コミュニケーションエイドについて基礎的な方法を説明できる		
	○	○			コミュニケーションエイド利用の実際について症例を通して活用法を選択することができる		
			○	○	基本的なコミュニケーションエイドの操作が行えるようになる		
		○	○	スイッチやブザーなど基本的なAACを作成し実際に使用できる			
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚療法シリーズ 16「改訂 AAC」 久保健彦 編著, 建帛社, 2009						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	AACとは何か	AACで何を学ぶのか			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	2		AACの歴史と概念、障害・症状別の援助方法			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	3	技法	非エイド・コミュニケーション			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	4		ローテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	5		ハイテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	6		ハイテク・コミュニケーション・エイド(演習)			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	7		各種技法のまとめ			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	8	症例	臨床の実際 小児			演習2の準備を行う。	
	9		臨床の実際 成人			演習2の準備を行う。	
	10	演習1	活用できる福祉制度			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	11		様々なコミュニケーション機器を操作してみる			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	12	演習2	スイッチ、ブザー、BDアダプタなどを実際に使えるようにする(スイッチ 選択の基礎知識、フィッティング、工具の使い方の講義を含む)			製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
	13					製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
	14					製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
15	まとめ	制作物のプレゼンテーションとまとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記実技)は実施せず、授業中の取り組みと、演習2における制作物、及びそのプレゼンテーションと口頭試問で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技	○	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							

科目名	聴覚障害Ⅴ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	竹松 知紀・星子 隆裕		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	実践で使える検査法を習得する。さまざまな検査法を理解する。検査結果を解釈し、以後の対応を考えることができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○	○			聴覚器の構造と機能を説明することができる。		
	○	○			聴覚検査の実施手順を述べることができる。		
			○	○	聴覚検査を模擬的に実施することができる。		
		○	○		聴覚検査の結果を解釈し、報告書を作成できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:日本聴覚医学会. 聴覚検査の実際 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1・2年次の復習を行う(耳の構造の部位を列挙できる)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	2	聴力検査を学ぶ(純音聴力検査の理解を深める)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	3	聴力検査を学ぶ(ご恩聴力検査の理解を深める)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	4	マスキングを理解する(陰影聴取の原理を説明できる)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	5	自覚的聴力検査・評価を行う(ABLB、SISI検査、自記オージオ他)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	6	他覚的聴力検査・評価を行う(インピーダンスオージオメータ)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	7	他覚的聴力検査・評価を行う(耳管機能検査、耳音響放射検査、聴性定常反応検査他)			授業のまとめ資料を用いた復習(30分)		
	8	まとめ			レポート課題(1時間)		
	9	聴力検査演習を行う(標準純音・SRT・SDT)			検査の自主練習(1時間)		
	10	聴力検査演習を行う(標準純音・SRT・SDT)			検査の自主練習(1時間)		
	11	聴力検査演習を行う(標準純音・SRT・SDT)			検査の自主練習(1時間)		
	12	聴力検査演習を行う(標準純音・SRT・SDT)			検査の自主練習(1時間)		
	13	聴覚検査演習(小児聴覚検査)			検査の自主練習(1時間)		
	14	聴覚検査結果の解釈1			授業のまとめ資料を用いた復習(1時間)		
15	聴覚検査結果の解釈2			授業のまとめ資料を用いた復習(1時間)			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)		○	◎	○		50%
	実技レポート	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	リスク管理を始めとして、臨床実習に臨む上で必須だが、直接教科学習で学ぶ機会の少な かった事項について、実習セミナーの形で学ぶ						
授業形式	講義:	△	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚士が行うべきリスク管理について説明できる	
	○	○				個人情報保護について述べる事ができる	
	○	○				バイタルチェック、行動観察のポイントを述べる事ができる	
	○		○			マニュアルに沿って検査の実施ができる	
テキスト・教材 参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	リスク管理の実際				事故防止対策マニュアルで、20分程度、予習・復習	
	2	個人情報保護について				実習手引きで10分の復習	
	3	症例レポートのまとめ方				実習手引きで10分の復習	
	4	バイタルチェックの実際				自主練習を2時間程度しておく	
	5	観察の仕方				自主練習を2時間程度しておく	
	6	観察情報のまとめ方				自主練習を2時間程度しておく	
	7	言語聴覚療法実技演習				自主練習を2時間程度しておく	
	8	言語聴覚療法実技演習				自主練習を2時間程度しておく	
	9	介護技術演習				車いす操作等の自主練習を復習として2時間程度しておく	
	10	評価実技テスト				自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと	
	11	評価実技テスト				自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと	
	12	療法実技テスト				自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと	
	13	療法実技テスト				自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと	
	14	知識習得度確認テスト				国試過去問で1時間程度勉強しておく	
15	知識習得度確認テスト				国試過去問で1時間程度勉強しておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	◎	◎	◎			50%
	小テスト	◎	◎				50%
履修上の注意	自主練習を欠かさないでください。						

科目名	臨床実習						
科目名(英)							
単位数	12			時間数	480		
実施年度	2020年度			実施時期	通年		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年次						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
実習目標	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
	○	○	○	○		(2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本態度を学ぶ。	
	○	○	○	○		(3)学内にて習得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
実習計画	実 習 内 容						
	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	臨床実習Ⅰ(4週間) 2020年5月25日～6月25日					
	8						
	9	臨床実習Ⅱ(8週間) 2020年7月6日～8月29日					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点を7割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を3割 臨床実習成績報告点7割の重み付けは、4週間が3分の1、8週間が3分の2とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	上記参照	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							